



津山市地域おこし協力隊

田中 健昌さん (沼)

平成28年4月から津山市地域おこし協力隊として、東京都から津山市に移り住む。あば村運営協議会で、再生可能エネルギーを活用した地域活性化や、住民出資の合同会社あば村の運営支援などを行っている。



落合川流域の流量調査の様子



川の流れる水速を計る田中さん



津山市地域おこし協力隊になろうと思ったきっかけは？

以前、都内のビル管理会社で経理の仕事をしていた時、東日本大震災後に電気料金が大幅に値上がりしたので、電気料金について調べていました。電力会社から送電線を使って送られる電気以外にも、電気を確保できる方法があることや、環境に優しい生活をしている人がいることなどを、その時に知りました。

次第に、わたし自身もエネルギーを無駄に使わない生活をしたい、そして、再生可能エネルギーに関わる仕事をしたいという思いが強くなり、再生可能エネルギーを利用して地域活性化に取り組む地域おこし協力隊を津山市が募集していることを知り、すぐに応募しました。

地域おこし協力隊の活動について教えてください

主に、阿波地内の落合川流域で小水力発電の事業の可能性を調査しています。川の許認可関係の確認をはじめとして、専門的な助言をしてくれるコンサルタント会社や大学の教授などととも、川の流量や地形、生息している生物の調査などを行ったり、採算性などについても検証したりしています。

今後の目標は？

現在、携わっているのは、小水力発電が事業化できるかどうかの調査なので、最終的な事業化の判断は地域に委ねられることとなります。その際の判断材料として、さまざまなことについて検証した資料を提供できるよう頑張っており、取り組んでいきたいです。阿波の豊かな資源を生かして、さらに魅力ある地域づくりに貢献できれば、とてもうれしいです。



特集で小中学校の教育現場取材しました。どの授業でも積極的に取り入れられていたのが「アフティプランニング」。教師と生徒の対面式だけでなく、生徒同士がグループを組んで学び合い、知性を高めている姿がとても印象的でした。取材にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。(W)

味覚というものは、年齢とともに変化していくものなのでしょう。昔は苦手だったコーヒーの味や香りが、最近は心地良く感じ始めました。「珈琲」という漢字の当て字は、津山藩医であった宇田川榕菴が生み出したそうです。津山と縁が深いコーヒーの味を楽しめるようになりうれしです。(雨)

取材で特に気になるのが天候です。取材当日が悪天候の予報だと、良い写真が撮れるだろうかと不安になり、前夜はぐっすり眠れませんでした。幸い、フルマラソン大会は好天に恵まれたので、沿道で応援する人たちのいろいろな角度から写すことができました。一緒に取材した(雨)さん、実は晴れ男？(笑)